



高原の自然館ニュースレター

# 苜尾電波塔

第 28 号

2006.4.1

高原の自然館

苜尾（かりお）とは、広島県北広島町芸北にある山の名前です。  
一般には臥竜山として知られていますが、地元の人たちは親しみをこめてもっぱら「かりお」の名前をつけています。

## も く じ

### おしらせ

- 第 13 回西中国山地自然史研究会総会を開催
- 『飯田恒弘・八幡写真展 臥龍・森の物語 ブナ林の四季』を開催

### 活動報告

- スノートレッキング

### 観察会案内

- 山焼き後の雲月山観察会
- 両生類の産卵調査
- 2006 年度の観察会等日程

### 花だより

- ハンノキ
- ハイイヌガヤ

## お し ら せ

### 第 13 回西中国山地自然史研究会総会を開催します (2006.4.16)

西中国山地自然史研究会の活動を充実させるための会を開催します。観察会や調査など、これから会のことを決める大切な会です。ぜひご参加ください。雲月山の観察会終了後に行いますので、こちらと併せてどうぞ。なお、出席出来ない方は、委任状を送付ください。

### 『飯田恒弘・八幡写真展 臥龍・森の物語 ブナ林の四季』が開催されます

西中国山地自然史研究会の会員であり、苜尾にも寄稿いただいている飯田さんの写真展が、芸北文化ホールにて開催されます。臥竜山のブナ林を中心に 10 年間にわたって撮影された作品、約 50 点を展示します。ぜひお越し下さい。

詳しいことは同封のチラシをご覧ください。

## 活動報告

### スノートレッキング

開催日時：2006年3月12日（日）9：30

午前8時、八幡はパラパラと雨が降っていました。市内から来る人達のことを考えると、中止を決定するならもう電話しないといけません。雨の中を歩いてみるのも良いかもしれないと判断し、決行することにしました。すると、開始時刻ごろには雪に変わっていました。

今回は千町原と反対の土嶽の方に歩いていきました。雪がずいぶん溶けていて、木の枝を見ると、かなり高いところにもウサギの食べ痕がありました。これは、ウサギが木に登ったのではなく、枝が雪で押しえられていたためです。雪の影響は多様です。ウサギはイヌザンショウを好んで、ズミやノイバラも食べていました。

土嶽では、八幡湿原自然再生事業の広報担当幹事をしている茂田さんに事業の説明をしていただきました。冬の間はそこが湿原でもノイバラの藪でも、同じ一面の雪景色なのですが、湿原が再生されると、景観はガラリと変わるのでしょう。

水口谷湿原の広い木道を通って千町原の丘の上に着くと、ずいぶん雪が溶けていました。そこでは、ハタネズミの通り道やイノシシのフン、地衣類なども見られました。

悪天なので、お弁当は持たずにおやつだけにしたのですが、終わってみるとトレッキングには良い天気でした。途中から雪は止んだのですが、ずいぶん冷え込んだようで、木の枝にはつららができはじめ、苧尾のブナ林はきれいに樹氷が付いていました。13時を少し回った時間に自然館の前で解散しました。[し]



八幡湿原自然再生事業の説明をする茂田さん。



木の中にある虫を食べるのはキツツキの仲間に加え、キバシリとゴジュウカラがいる。



まだ80cmくらいの積雪がある。





木の根本だけは雪が溶けて「ねあき」が出来ていた。木の下側から溶ける様子が良く分かる。



イノシシのフン。茶色っぽいのはウサギのふん。イノシシのフンはまとめて排泄され、ばらける。



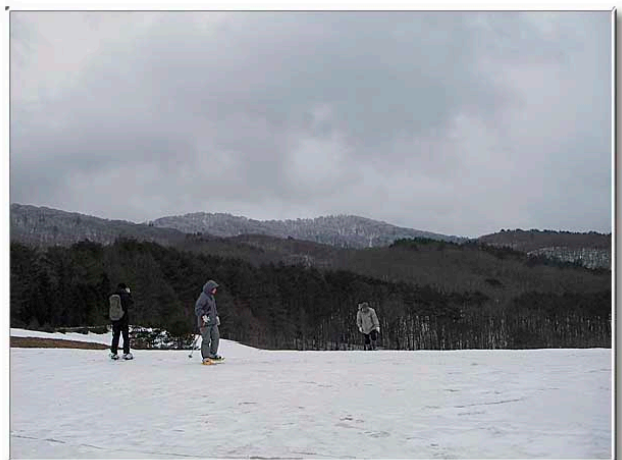
雪の上にカゲロウがいた。春だ。



色鮮やかなのは地衣類だけ。



千町原の丘は、だいぶ雪が溶けている。



苅尾の山頂は樹氷に被われていた。

## 観 察 会 案 内

### 山焼き後の雲月山観察会

開催日時：2006年4月16日（日）9：30から  
集合場所：雲月山駐車場  
準備：山を歩ける服装、弁当、水筒、筆記用具、双眼鏡など  
参加料：300円（自然史研究会会員は100円）

火を放たれた翌週の雲月山を歩いて、火入れがどのように植物に影響を与えるかを観察します。この時期に生えている植物は少ないですが、山焼き直後の様子を見ておくことで、その後の山歩きが何倍も楽しくなるはずです。山焼きが中止の場合にも、観察会は行います。

2006年

- 4月8日 雲月山の山焼き
- 4月16日 山焼き後の雲月山の観察
- 4月29日 カスミサンショウウオの産卵調査
- 5月7日 大潰山の春植物観察
- 5月13日 サクラソウ保全のはなし
- 5月14日 バードウォッチング
- 6月18日 阿佐山の動植物
- 6月25日 植生調査
- 7月22日 昆虫観察
- 7月23日 湿原の観察  
-八幡湿原と自然再生事業-
- 8月5日 カワシンジュガイの観察
- 8月20日 巣箱づくり
- 9月18日 植生調査
- 9月24日 雲月山の植物
- 10月8日 キノコの観察会
- 10月9日 サツキマスの産卵
- 11月11日 冬鳥の観察・紅葉とゴギの産卵
- 11月19日 千町原の草刈り

2007年

- 1月21日 アニマルトラッキング
- 2月18日 スノートレッキング
- 3月11日 苧尾トレッキング

### 両生類の産卵調査

開催日時：2006年4月29日（日）9：30から  
集合場所：高原の自然館  
準備：山を歩ける服装、長靴、弁当、水筒、筆記用具、ルーペなど  
参加料：無料

湿原の再生事業が展開されている土嶽地区で、カスミサンショウウオをはじめとする両生類の産卵状況を調査します。昨年も対象地域の外縁部付近でしか産卵は確認できませんでした。また、一昨年4月に水路を設置して、導水した実験地では、昨年はカエルによるたくさんの産卵が確認されました。今年はどうでしょうか？

## 花 だ よ り

### ハンノキ

湿地や休耕田など、湿った場所にも生きられる特殊な木です。いっせいに花を付けるのですが、風媒花なのでなかなか気付いてもらえません。ヤシャブシなども似た花を付けます。花粉症には、ハンノキが原因物質の場合もあるそうです。ナメコのほだ木になります。

### ハイヌガヤ

ブナ林の林床などに生える常緑の低木です。花は、水平に伸びる枝の下に付きます。葉を水平に出すので裏側になるのですが、しばしばひっくり返っているのを目にする事は多いようです。

毎年、3月の末には日本生態学会の全国大会が開催されます。会期が5日間なので、移動も含めると一週間は芸北を離れることとなります。この季節の一週間は変化がめまぐるしいので、帰ってくると浦島太郎になったような感覚を味わいます。今年は3月末に2日続けて雪が降りました。2日間で30cm程度の積雪ですが、ずいぶんと重い雪で、同じ真っ白な景色なのに、春を実感させる名残雪でした。いよいよ花の季節がはじまりますね。

記事に関するお問い合わせ、観察会のお申し込み先  
(ご意見・ご感想もお待ちしております)

### 高原の自然館（こうげんのしぜんかん）

〒731-2551 広島県山県郡北広島町東八幡原 119-1  
tel. & fax : 0826-36-2008  
<http://shizenkan.info/> staff@shizenkan.info  
冬季連絡先：0826-35-0070（芸北文化ホール）